

# いつも身边に新聞を～めくって読んで活用する～

宮崎市立生日台西小学校  
NIE 担当 中島 朋代

## 1はじめに

本校は昨年度から継続して、NIE 実践指定校となった。昨年度は、「分かる・できる」喜び、学ぶ楽しさを実感できる児童の育成～読解力を育む活動の充実を通して」を研究主題として、校内研究を進め、児童のリーディングスキルの育成と NIE の実施を研究内容として取り組んだ。今年度は、副題を「～協働的な学びの場の充実を目指して～」として子どもたちの学び合いに焦点を当てた研究に取り組んできた。そのため、本年度は、これまで本校が行ってきた NIE 実践の積み重ねを生かしながら、児童も教師も、新聞を日常の身近なものに感じ、触れ合い、学習の教材として活用していく実践を目指した。

## 2 本年度の取組

### (1) 環境整備

児童が新聞を身近なものとして感じやすいよう、児童も教師も新聞を手にとりやすい環境の整備を行った。

#### ○ 新聞の年間購読

宮崎県 NIE 推進協議会のご協力により、5月～1月まで毎月2～3社の新聞が届く計画となっていた。さらに、本校でも2社（宮日・読売）の新聞を購読していた。また、週に1回届く「宮日子ども新聞」も活用した。

#### ○ 新聞の設置場所

届いた新聞は、主に4～6年生の各教室と職員室に配付し、設置した。本校は各学年1学級のため、学年に1社ずつ配付した。新聞の設置方法や活用方法は、各学級での対応とした。

また、「宮日子ども新聞」は低学年でも読みやすいため、図書室に常時設置することにした。本校の図書館はオープンスペースなので、児童の目に留まりやすい廊下側に設置した。



【6年生 教室】



【図書館前】



【図書館 本棚】

### (2) NIE タイムの実施

本校では、週に1回程度、朝の活動の時間に「NIE タイム」を設けている。1回15分という短い時間ではあるが、児童が活字に抵抗なく新聞と向き合えるよう、各学年の実態に応じて、担任が活動内容を考えて実施している。本年度の各学年における主な NIE タイムの活動内容と状況は以下の通りである。

学年	活動内容
低学年 宮日こども新聞活用	<p><b>○ 担任による新聞記事の紹介</b> 児童が興味をもてそうな記事を選び、記事の読み聞かせを行う。記事の写真を見ながら、一生懸命聴く児童の様子が見られた。</p> <p><b>○ 児童による新聞の自由閲覧</b> 気になった「宮日こども新聞」を児童が自分で選び、閲覧する。新聞を自分のペースでめくりながら、じっくり読む様子が見られた。また、NIE タイムの最後に、友達と気になった記事を紹介する時間を設けると、楽しそうに新聞を囲みながら話す姿が見られた。</p> <p><b>○ カタカナはっけん ちょうさたい</b> 「宮日こども新聞」からカタカナの言葉をさがし、ワークシートに書き写す。カタカナを習ったばかりの1年生はもちろん、2年生も1つでも多く探そうと一生懸命活動する姿が見られた。</p>
中学年 宮日こども新聞 または 一般誌活用	<p><b>○ 担任・児童による新聞記事の紹介</b> 担任だけではなく、児童が新聞から気になる記事を選び、友達に紹介する。4年生は記事を読んだ感想を文章にまとめ、全体に向けてスピーチをしていた。</p> <p><b>○ 新聞記事の読み取り・感想記入</b> 教師が、選んだ記事をもとにワークシートを作成する。児童は記事を読み、ワークシートに取り組む。児童の実態に合った記事を選ぶことで、活字に抵抗のあった児童も興味をもって読むようになってきている。また、自分の感想をまとめることも回数を重ねるごとに上達している。</p> <p><b>○ 俳句・短歌に挑戦</b> 国語において、俳句や短歌を学習する学年である。新聞に掲載されている俳句や短歌への興味も高く、声に出しながら読み、俳句と短歌独特のリズムを楽しむ姿が見られた。宮日新聞の作品応募へも意欲的だった。</p>
高学年 一般誌活用	<p><b>○ 新聞記事のスクラップ</b> 新聞記事の中から気になる記事を選びスクラップする。記事の内容についての自分の考えをまとめ、付箋に記入する。自分で選ばなかった記事も、友達のコメントを読んで、興味をもつ児童も多かった。</p>

	<p>○ 4コマ漫画 並べ替え【新聞で授業が変わる NIE ガイドブック参照】</p> <p>活字が苦手な児童でも、4コマ漫画は読みやすい。また、季節や日常に合った内容が多いので活用しやすい。4コマ漫画をバラバラに提示し、話の順序を考えながら並べ替えをさせた。また、題名や台詞の一部を考えさせると、児童の個性が出て面白かった。</p> <p>○ 新聞記事の読み取り</p> <p>活動内容は、中学年と同じである。高学年は更に、記事の見出しを考えさせる活動も行った。記事を正確に読み取る力、要旨を短く表現する力が身に付いてきた。</p>	
--	---	---

### (3) 授業における新聞活用

職員室にも、常に2社（宮日・読売）の新聞を置き、教師がいつでも手にとって閲覧できるようにしている。新聞には、児童の学習内容に関連した記事も多く、学習教材としても積極的に活用してきた。以下に、活用事例をいくつか紹介する。

#### ① 各学年における新聞活用事例

学年	新聞活用教科・単元
3年生	国語：「俳句を楽しもう」「短歌を楽しもう」
4年生	国語：「春・夏・秋・冬の楽しみ」「新聞を作ろう」 社会：「自然災害から命を守る」「県の人々のくらし」
5年生	国語：「春の空」「夏の夜」「秋の夕暮れ」「冬の朝」「新聞を読もう」 社会：「自然災害から人々を守る」
6年生	国語：「春のいぶき」「夏のさかり」「秋深し」「冬のおとずれ」 社会：「大昔のくらしとくにの統一」「天皇を中心とした政治」 総合的な学習の時間：「仕事発見☆大作戦」
家庭学習	国語：「天声こども語」音読・視写・語句調べ・要約（上学年のみ）

#### ② 第6学年 社会科における新聞を活用した授業

第6学年の社会科では、我が国の歴史について学習する。これまでの歴史の中で、時代とともに、人々の暮らしが変化してきたことを、歴史的事象や関連する人物、遺跡や文化財等について調べることを通して学び、理解していく。

以下には、弥生時代について学習した際の新聞活用について紹介する。

#### 1 単元 「大昔のくらしとくにの統一」（第5時／8時間）

##### 2 ねらい

○ 吉野ヶ里遺跡などを調べ、小さなむらが大きなくにへと統一されていく社会の変化を考えることができる。

##### 3 NIEとの関連

○ 本時では、弥生時代の代表的な遺跡として、佐賀県の吉野ヶ里遺跡が教科書に掲載されている。児童がこの内容を学習する時期でもあった6月より、数回にわたって吉野ヶ里遺跡



での発掘調査の記事が新聞にも掲載されていた。児童にとっては、教科書上の、大昔の出来事としてしか捉えていなかったことが、リアルタイムで新聞に掲載されていたことで驚きがあったようである。また、大昔の遺跡が今でも大事に保存されていること、そして現代でもなお、謎の解明に尽力している人々がいることに気付くことができた。

#### 4 児童の反応

- 吉野ヶ里遺跡についての6月6日の記事は、教師が発見し、児童に提示した。その後、歴史に関心の高い児童が新聞を進んで閲覧するようになり、社会科で学習した内容の記事を児童自ら発見するようになった。（古墳や災害、戦争についての内容等）
- 現在の新聞に、教科書で学習した歴史的事象とつながりのある内容が掲載されていることで、「昔と今のつながり」を実感できた。
- 歴史を背負って今でも活躍している人がいることに気付き、これから未来のために自分たちができることについて、「自分事」として改めて考えることができた。

#### (4) 新聞への作品投稿啓発

作文や詩、俳句や短歌、図工の作品等、あらゆるジャンルの作品投稿への啓発を全学年対象に行った。作品投稿は自主性に任せ、国語科担当教諭がひと月分をまとめて応募する。今年度も多くの児童が挑戦し、新聞に作品が掲載された。



### 3 本年度の実践における成果と課題

#### (1) 成果

- 新聞が身近にある環境を整え、さらに児童が楽しく新聞を関わるNIE活動を行ったことで、児童が新聞に親しみをもち、進んで手に取る児童が増えた。
- 自分で読むだけでなく、教師や友達の選んだ記事を提示することで、児童が興味・関心をもつ分野を広げることができた。実際に新聞で出会った記事に興味をもち、さらに詳しく自分で調べようとする児童も見受けられた。
- 年度初めに本年度のNIE活動について、職員間で共通理解を図った。昨年度までの活動を土台とし、さらに各学級の実態に応じた活動内容を実施することができた。
- 新聞を活用することで、読書同様、様々な文章表現にふれる機会がふえた。また、NIEタイムで自分の考えをまとめる活動を継続して行ったことで、文章に対する苦手意識が減るとともに、児童の表現力も向上してきている。本年度の高学年では、標準学力調査の記述式問題への児童の取組や正答率に効果が表れていたように感じている。

#### (2) 課題

- 下学年児童にも、上學年同様、常に身近に新聞がある環境を整えたかったが、予算上、新聞購読できなかった。「宮日こども新聞」を各学級に順番で回覧する等、下学年の教室でも、児童が新聞を手に取りやすい環境整備を計画していく。
- 「NIEタイム」は、児童が積極的に活動する姿を見られたが、学年の実態に応じた活動を考え、そのための準備が必要である。本年度は主題研究の一環としての取組としていなかったため、準備の時間等を確保することができず、担任の負担が増えることとなってしまった。担任の負担とならないよう、これまで使用した資料等は保存し、次年度へ引き継ぐようとする。
- 家庭との連携を図った取組ができると、NIEの更なる充実が期待できると考えられる。

今後は、学級通信や学校ホームページで保護者に向けて周知していく等、工夫していく。